

～[たくさん話し たくさん学ぼう]～

今はもう成人して社会人となったわが子が幼少の頃、1, 2歳の頃だったでしょうか。「三つ子の魂百まで」のことわざにあるように、「今が大事!」と思ってしつけに関わる本をたくさん買ったことがあります。しかし忙しさにかまけて、結局は部屋の隅で埃をかぶったままの状態になってしまいました。ただ「親の務めは本好きの子どもを育てること。あとは人生に必要なことはすべて本が教えてくれる。」の文章が私の心の中にずっと残っておりまし

た。
子どもが幼少の時代は映画「ハリポッター」シリーズが大人気の時代で、それならと、映画を見せた後に



原作本を読ませるといって「作戦」を立てたり、いろいろ手を変え品を変えて本を読む習慣をつけようとしていました。

ある日、子どもがふと「お父さん、映画より本の方が面白い。映画は何だかあらずじだけのような気がする。」と言いました。それを聞いて、だんだん本を読めるようになってきたと、うれしく思いました。

読書の勧めについては「麗気烈風 NO3」でお伝えしたところです。いかがですか、子どもさんは連休中に誰か素晴らしい作家との出会いがありましたか。

教壇に立ち、たくさん生徒達と接しているうちに、読書も大切だがそれと同じくらいに大切なことがあることに気づきました。それは筋道を立てて、分かりやすく人に伝えることのできる力です。「表現力」という言葉で通知表の評価項目に記載されている力です。

少しややこしい話になるかもしれませんが、どうかご容赦ください。

我々人間の思考は、何となくぼんやりとした形のない「イメージ」と形のはっきりした「言葉」によって行われます。人があることについて理解し、考えるときは、「イメージ」と「言葉」を無意識に、交互に使っています。イメージだけ、言葉だけでものごとを考えることはできません。

子ども達は勉強すると、結果として3つの状態に分か

れると思います。1分からない状態、2分かる状態、3分かったか分からないかが分からない状態、の3つです。高校や大学の授業となると明らかに1の状態の生徒が増えてくるとは思いますが、中学校の場合は、2と3の状態の生徒が多いのではないのでしょうか。

2と3の状態の違いは何か。ズバリ理解した内容を「言葉」で説明できるか、にあります。何となく分かっているようだけど、言葉にはできない、という状態は、「イメージ」はつかめたが「言葉」として整理できない状態になっているはずで

す。ですから、勉強が分かるようになりたい! 志望校に絶対に合格したい! と思っている生徒は、学習したことをノートにきちんと書き出したり、分かりやすく他者に説明する訓練が必要です。そのためには普段から言葉を丁寧に、そしてたくさん遣う習慣をつけねばなりません。

そうした習慣をつけるためにどうすればよいのでしょうか。例えば生活ノートの「毎日の記録」コーナーにその日あったこと、思ったことをなるべく小さい字でなるべく詳しく書く。またこれとは別に日記をつけてもいいですね。パソコンを持っている人は word や excel で日記の様式をつくり、自分だけの日記を作るのも一つの方法です。ただこれは結構根気のいる作業です。なかなか続けることは難しいかもしれません。

そこで保護者の皆様の力が必要になってきます。簡単なことです。皆さん、お忙しいとは重々思いますが1日、10分でも5分でも構いません。時間をとっていただき子どもさんにその日あったことを聞いてあげてくださ

い。よく分からない内容でしたら、分かるまでとことん聞いてあげてください。そうしているうちに筋道立てて考え、表現する力が

必ずついてくるとは思います。またそうした会話を繰り返す中で何より親としての生き方、考え方が子どもさんに伝わっていきます。そしてそれが本当の意味での教育になっていくはずで

す。明日は体育大会です。体育大会を終えて、子どもさんがどのような思い出話を持って帰るか、保護者の皆様、とことん聞いてあげてください。よろしく願いいたします。



保護者の皆様へ。最近、自転車マナーについて地域の皆様からの声をいただくことができました。道路に広がって自転車を運転していたものだから、危ないと思って注意したら、逆にその子ども達が睨んだとか文句を言ったとか。TPOに応じた行動をすることももちろん大切ですが、それ以上に、人の命は驚くほど脆いものであり、常日頃から命の大切さを忘れないようにとご家庭でも今一度ご指導ください。一瞬の油断でとりかえしのつかない事態になるのが交通事故です。

